

CWA NEWS



会長あいさつ



千葉ウィスコンシン協会
会長 茂木 友三郎

令和2年最初のCWA NEWSの発刊に当たりご挨拶申し上げます。

日頃より千葉ウィスコンシン協会の交流事業等に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成2年に千葉県とウィスコンシン州が姉妹県州の提携をし、その後、当協会が千葉県側の交流窓口となってから16年目に当たります。

この間、関係各位のご尽力により、幅広い分野で、地域に根ざした民間レベルの活発な交流が展開されました。そして、その成果として、市民レベルでの交流の輪が着実に広がるとともに深まってきております。

昨年10月には、文化・芸術、酪農及びサイクルツーリズムの3つのグループによる総勢16名の千葉県友好使節団が、ウィスコンシン州内の学校や農場、企業等を訪問し、多くの人々と交流を深めました。また、知事公邸を訪問した際には、エバーズ州知事令夫人の歓迎を受けました。令夫人は9月に州知事とともに千葉県庁を訪問され、その際に使節団員ともお会いになっております。それもあって、とても印象深い訪問になったのではないかと思います。

本年は、姉妹提携30周年という記念すべき年であり、ウィスコンシン州から友好使節団を受け入れる年にもなっております。現在プロジェクトチームを立上げ準備を進めておりますが、これまでの交流実績を活かして、より実りのある交流に向けて取り組むとともに、千葉県のすばらしさを紹介し、友情と交流をさらに深めていただくことを心より期待しております。

結びに、当協会の交流事業等につきまして、今後とも当協会の役員、会員をはじめとする皆様方のより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、挨拶といたします。

一緒に感謝祭！～サンクスギビング＆日本の実り～

好天に恵まれた11月17日（日）、千葉市生涯学習センター食文化研修室において、今年度の食文化交流会が開催されました。今回は例年よりも多い15名ものウィスコンシン州出身のALT（外国語指導助手）が参加し、CWA会員などを含め総勢35名と大盛況となりました。

CWA運営委員は9時に集合し、千葉伝統郷土料理研究会のメンバーのご協力をいただきながらターキーをオープンに入れたり、会場づくりや食材の準備のほか、一部下ごしらえを粛々と進めていると、受付時間の10時15分には大勢の参加者が次々と集まり、室内は一気に賑やかになり熱気を帯びてきました。

今回は、ターキーやマッシュポテト、克蘭ベリーソース、グリーンビーンキャセロール、スタッフィング、アップルサイダー、パンプキンパイの7種類のメニューを用意し、ALTを含め参加者全員が調理を分担しました。また、定番となった房総太巻き祭り寿司&いなりずしや野菜スープもあり盛りだくさん。ALTの皆さんはそれぞれ何を担当するか予め決めておいたからでしょうか、手際も良く、食べる時間にあわせて調理するなどの配慮にも感動です！お腹も大分空いてきた12時を過ぎる頃、3時間以上じっくりと焼いたターキーの香ばしい匂いが廊下にまで漂っていました。



全員で作った料理はとても美味しかったです。



房総太巻き祭り寿司は、いつも体験を希望する人が多いのですが、お子さんにも大好評。12時30分には所狭しと並んだ料理を囲み、全員で「いただきます」。美味しい料理に笑顔とおしゃべりが弾みました。

参加者全員による自己紹介で盛り上がり、記念撮影も済んだ後は、全員による後片付けです。ALTも積極的に参加し、すべてが滞りなく終了しました。「美味しくて、もう2、3日食べなくとも良いくらい

にお腹がいっぱいになったよ、またね」と言い残し、会場を去るALTもいました。掲載した左の集合写真にも参加者の満足感が表れていると思いませんか？

なお、食文化交流会は会場の都合でこれまで年明けに開催することもあったのですが、今回はサンクスギビングデーのある11月に開催できたことで、より多くのALTが参加したようです。加えて、日本ではなかなかターキーを食べられないですからね。



全員で記念写真

ウィスコンシン州への千葉県友好使節団派遣報告

令和初の友好使節団は、文化・芸術グループ、酪農グループ及びサイクルツーリズムグループの総勢16名がウィスコンシン州を訪問し、現地で多くの人々と交流を深めることが出来ました。

文化・芸術分野では、市川市南行徳花組の6名と事務局2名が、ミルウォーキー地域の学校等を訪問してパフォーマンスを披露しました。

酪農分野では、県内酪農家の若手後継者の3名と事務局1名が、牧場やチーズ製造工場等の現場を訪問しました。

サイクルツーリズム分野では、地方創生、地域振興、スポーツツーリズムという異業種の3名と事務局1名が自転車というキーワードのもと、ミルウォーキーやマディソンを中心に、自転車製造・販売メーカー等を訪問すると共に、自転車道を走行する等、多岐にわたる交流を行いました。

各グループの行動記録については、次ページ以降をご覧ください。なお、同行した事務局では、2020年度が姉妹提携30周年という記念すべき年に当ることから、州から派遣されるグループについてウィスコンシン千葉委員会との意見交換等を行いました。

また、10月21日に友好使節団16名は一緒に行動しました。まず、キッコーマン・フーズ社のウィスコンシン工場を訪問し、工場見学を行うことが出来ました。4年前に友好使節団が訪問した際に25周年記念植樹をしたJapanese White Silk Lilacについては、生憎の悪天候のため写真を見せていただき順調に成長していると伺いました。

その後、マディソンに向かい、州知事公邸を訪問しました。公邸ではエバース州知事令夫人の歓迎を受けました。友好使節団として公邸を訪問したのは初めてでしたが、これも昨年9月に州知事が令夫人と共に県庁を訪問されたことが大きかったと思います。そして、公邸内の部屋に飾られていた額が9月に大澤克之助副会長から州知事に贈られた大浦京子運営委員の作品（右下の写真）であったので感激しました。

次に、州庁舎を訪問しました。議会内では、前下院議員のMarlin Schneider氏から議員生活40年の経験を活かした説明があり、大変興味深いものでした。

今回の派遣では、団員の中では台風被害で大変だった方や地元の行事との調整もして参加くださった方もあり、ご参加下さった団員の皆様には改めてお礼申し上げます。



キッコーマン・フーズ社の玄関で



工場敷地内の
Japanese White Silk Lilac



エバース州知事令夫人と記念撮影



大浦さんの作品

また、団員を温かく受け入れて頂いたホストファミリー、訪問先の学校・大学・企業等の関係者をはじめ、受入日程等を企画、実施してくださったウィスコンシン千葉委員会の皆様には大変お世話になりました。ここに深く感謝いたします。

（CWA運営委員長・団長 森山茂男）



議会内での説明

各グループの交流活動

▶文化・芸術グループ

文化・芸術グループは、市川市南行徳花組（よさこい演舞）の6名のみなさんと千葉ウiskonシン協会事務局（CWA）2名、合計8名の編成で参りました。

10月17日にはミルウォーキー市のNorth Division High Schoolで行われたイベントに参加してよさこいを踊りました。観客席の高校生から盛んな拍手や応援の聲がかかり、花組のみなさんの踊りにも力がこもっていました。この日は日本以外の国の踊りも披露されました。2018年に木更津市を訪問したネフェルタリ・アフリカン・ダンス・カンパニーのみなさんの踊りも披露されました。

午後からはItalian Community Centerで踊りました。この場所で、ホストファミリーの皆さんと対面しました。

10月18日にはWilson Park Senior Centerで踊りました。このセンターは地域の高齢者が集まる施設で当日は、ハワイアンダンスの練習をしていたみなさんと交流することが出来ました。

10月20日にはFranklin High Schoolで行われたJapan Fest 2019に参加し、踊りを披露しました。司会者に日本からのお客様として紹介され、歓迎されました。踊りを見た観客の皆さんから、たくさんの拍手をいただきました。

10月22日にはSt. Ann Center for Intergenerational Careで踊りました。このセンターは幼児と障害を持った高齢者が共に時間を過ごす施設でした。小学校入学前の小さな子どもたちや介護者を伴った人たちの前で、花組のみなさんは、優しい笑顔で元気よく踊りました。

（青木靖子、小川鉄次）

<団員> ※市川市南行徳花組

永井千代子（代表）、石井百合子、杉山充枝
中根恵子、平林よしえ、安藤千枝
青木靖子、小川鉄次（千葉ウiskonシン協会）

<行程>

- 10/17 North Division High Schoolにて公演
Italian Community Centerにて公演
- 10/18 Wilson Park Senior Centerにて公演
- 10/20 Japan Fest 2019(Franklin High School)
にて公演
- 10/22 St. Ann Center for Intergenerational
Careにて公演



Italian Community Centerで公演



Wilson Park Senior Centerで公演



Japan Fest 2019 (Franklin High School)で公演



North Division High Schoolの壁に描かれた生徒たちの作品の前で



St. Ann Center for Intergenerational Careで公演



North Division High Schoolで



ミシガン湖畔散策中に見つけたLoveの文字前で



州知事公邸内：後方右がエバース知事令夫人



St. Ann Center for Intergenerational Careで公演



文化・芸術グループ

永井 千代子

この度は、千葉ウiskonシン協会の派遣事業に参加させていただきまして有難うございました。行く前は何かと自分の身体のことや、初めてのホームステイのこと等が心配でしたが、始まってみるとアッという間の八日間でした。

ホストファミリーのリン様には、食事や送り迎えなど、たいへんお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。花組の6名は、それぞれ、三人、二人、一人に分かれ、三組のホストファミリーにお世話になりました。皆、ホームステイに慣れていないため、出かける前は、とても心配していたのですが、千葉ウiskonシン協会やウiskonシン側のご配慮により、私たちと一緒にホームステイをしてくださる方がいて助かりました。おかげさまで、安心してお世話になることができました。

公演の日程は、ハードに思う日もありました。途中、膝を痛めてしまうメンバーもいましたが、なんとか乗り越えることが出来ました。それぞれの場所で、年齢を問わず、たくさんの人たちと交流を深めることができましたことは、なによりの思い出です。

他のグループと一緒にの訪問では、ウiskonシン州知事公舎やウiskonシン州庁舎が素晴らしいと思いました。湖に面した公邸に向かって広い敷地を歩いて行くと、樹木は紅葉し花壇には菊の花が見事に咲いていました。エバース州知事令夫人がお迎え下さり一緒に記念撮影をしました。職員の説明で公邸内を見学しました。明るく素晴らしい公邸でした。めったに行けない所に行けて感激しました。この気持ちは、花組の他のメンバーもきっと同じだったと思います。

ホームステイを始めとして、今回の派遣では、たくさんの素晴らしい経験をさせていただきました。

2020年には市川市で、皆様をお待ちしております。



ウiskonシン州庁舎前で

各グループの交流活動

酪農グループ

酪農グループは、10月17日（木）から22日（火）の間、県内酪農家の後継者の若い団員は、乳牛の飼育や牧草等の飼料を生産する農場やチーズ製造工場、ソーセージ製造店舗を中心に視察しました。

訪問先の牧場では、日頃従事されていることもあり、搾乳や餌である牧草等の貯蔵方法などを熱心に視察し、質問をするとともに、千葉県での実際の状況をスマホの映像で見せて、情報交換をしていたのが印象的でした。

今回訪問した2か所の牧場は、家族経営と多角的な経営でしたが、両牧場とも経営者が抱える課題として後継者問題があるとのこと。

また、移動の途中で、元牧場があった地区が新しい住宅地区に変貌しているのを見る機会もあり、ウィスコンシン州においても酪農業の厳しさが垣間見られましたが、若い団員はどのように感じたのでしょうか。

更に、日頃牛乳の生産者の立場で関心を持っているチーズ工場において熱心に製造施設や製品等を見学していたのが印象的でした。
（森山茂男）



Koepke Farms, Inc.：牛舎前で給餌の様子を見学、人に近づいてくる



Koepke Farms, Inc.：飼料サイロから給餌車に入れている

<団員>

若月 美沙	（酪農家）
平山 彩華	（酪農家）
宮内 健	（酪農家）
森山 茂男	（千葉ウィスコンシン協会）

<行程>

10/17 Koepke Farms, Inc. (酪農用牧場)
Cozy Nook Farm (酪農用牧場)
10/22 Widmer's Cheese Cellars
(チーズ製造工場)
Usinger's Sausage (ソーセージ製造店舗)



Cozy Nook Farm：牧草の保管状況を視察



Koepke Farms, Inc.：搾乳施設の前で、Kimさんから説明を受ける



Cozy Nook Farm：牛舎の視察、敷き材のわらがきれい



Cozy Nook Farm：多目的経営の一つ、カボチャの畑を子供たちと一緒に



Widmer's Cheese Cellars：工程を見学する



Widmer's Cheese Cellars：チーズの試食タイム



Cozy Nook Farmの大きなトラクター



酪農グループ

若月 美沙

酪農グループ3名は、農場見学は2件、飼育頭数などは日本と近い形態でしたが、やはり飼料作物を作る畑の面積は比べ物にならない位に広がったです。

作物は飼料トウモロコシが大半とのことでしたが、飼育方法に合わせた粗飼料にする為に、収穫の段階で振り分けていると聞いてビックリ、日本では給餌時に調整するのが一般的なので、収穫量が違うと前段階での作業工程から変わるのだと思いました。トウモロコシの他には牧草も作っていましたが、気候が千葉より寒いのもあり、年間通して収穫の出来る物や寒さに強い物が多い印象。

また、日本と同様に郊外の都市化による糞尿処理問題、後継者問題、天候不順等、国が変わっても問題の根本は変わらないのだと感じました。

ホストファミリー宅では3人が別々のお宅にお世話になりました。初めはぎこちなかったやりとりも、翻訳機や身振り手振りを交えていくうちに、単語や表情だけで伝わる様になったのが嬉しかったです。食文化や生活習慣の違い、気候による災害等も含め、お互いに疑問に思う事や知りたいことなどを話して、有意義な時間を過ごす事が出来ました。3人一緒に市内観光やイルミネーションのイベントにも行き、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

最後の夜にホテルまで送って貰った時には「何しているの？家に帰るわよ？」と引き止められ、もう家族なのだからと言って頂きました。短い期間では有りましたが、ホストファミリーのJohnとArleneには本当に感謝します。

また、今回お世話になったCWAや現地のWCIの皆様、このような機会をいただき、有難うございました。



ホストファミリーのJorgensen一家と

各グループの交流活動

▶ サイクルツーリズムグループ

サイクルツーリズムグループは、今回の訪問日程で、多岐にわたり活動しました。

ウィスコンシン州の代表的な郊外の自転車コースであるElroy Sparta State Trailでは、中盤から雨も降る中、全てダートのコースを実走しました。約27km走破し終えた時には、背中も頭もびしょ濡れ・泥だらけになっていましたが、誰も風邪をひかなかったのは幸いです。天候には恵まれませんでした。日本にはないスケールのトレイルコースを実走できたのは貴重な経験となりました。また、Hank Aaron State Trailでは、Elroy Spartaとは対照的な街中のコースを実走しました。

鴨川市の姉妹都市であるマニトワック市では、姉妹交流や自転車事情について意見交換ができ、サイクルツーリズムグループの行程で最も交流らしい訪問となりました。

また、ウィスコンシン州に本社を置く世界的な自転車製造・販売メーカーであるTrek社との意見交換では、気候変動対策にどう取り組むかという大きなテーマを主軸にした極めてビジョン重視の同社のプレゼンテーションに団員一同感銘を受けました。千葉県側からもサイクルツーリズムの取り組みなどについてプレゼンするとともに、同社副社長の案内で、社内の工場・研究所の視察や、マディソンの自転車コースの試走もできました。

そのほか、自転車店の視察や、ウィスコンシン州立大学とConcordia Universityも訪問するなど、多方面にわたる行程を通して、ウィスコンシン州の様々な側面に理解を深め、交流することができた訪問となりました。

(小川智子)

<団員>

- | | |
|--------|---|
| 淡路 睦 | (千葉銀行執行役員地方創生部長) |
| 岡野 大和 | (一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川専務理事) |
| 大久保 利宏 | (公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー・
千葉県スポーツコンシェルジュマネージャー) |
| 小川 智子 | (千葉ウィスコンシン協会) |

<行程>

- | | |
|-------|--|
| 10/17 | Concordia University
Wheel & Sprocket |
| 10/18 | Hank Aaron State Trail |
| 10/19 | Elroy Sparta State Trail |
| 10/20 | マニトワック市 |
| 10/21 | ウィスコンシン州立大学 |
| 10/22 | Trek社 |



Elroy Sparta State Trailの実走



Hank Aaron State Trailの実走



鴨川の名工「波の伊八」の影響を受けた
葛飾北斎の波を描いたマニトワック市内の壁画



自転車店でも本格的なハロウィーンの飾りつけ



Concordia Universityの訪問



ガラス越しに、自転車製造や研究の様子を見学



Trek社の気候変動対策の5つの取り組み



副社長が「小学生だった1968年当時、60%の小学生が自転車通学だったが、現在は2%に満たない」と説明



マディソンの自転車コースを副社長を先頭に、自動車同様右側通行にて実走



サイクルツーリズムグループ

淡路 睦

私は、千葉県内で、より関係人口を増加させ、千葉県を活性化させるため、広域サイクルツーリズムについて研究していました。どうしても欠かせない要素は、大手自転車メーカーとの連携と考えていました。2020年度に千葉県と姉妹州であるアメリカウイスコンシン州が姉妹提携30周年を迎えると伺い、ウイスコンシン州のWaterlooに本社を持つ自転車メーカーのTrek社は、千葉県の連携先として最適と考え、友好使節団での訪問を決定しました。

本社訪問後すぐに、副社長自ら工場を案内してくださり、その後、会議室で同社のプレゼンを聞きました。冒頭、千葉県における台風の甚大な被害に対するお見舞いの言葉もありました。副社長のプレゼンは、気候変動に対して企業としていかに関与していくのか、という話が大半を占め、最後に自社の自転車の普及により、温室効果ガス排出の削減へ貢献していくという「自動車から自転車へのシフト」というストーリーでした。企業として気候変動リスクに対峙する姿勢に圧倒されました。

サイクルツーリズムの推進は、主に観光振興という観点から検討していましたが、自動車を自転車に置き換えた観光振興、という視点に立てば、それはまた、CO2削減の取り組みであり、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みでもあることに改めて気づかされた訪問でした。

千葉県では昨年、大きな台風被害を受けました。地域全体が気候変動に対してより敏感になっていくことが必要と感じています。



近隣の自転車店も視察

ウィスコンシン州のプロ・フットボールチーム Green Bay Packers を応援しよう!!

今年のスーパーボウル※では、サンフランシスコ49ersとカンザスシティ・チーフスが対戦し、チーフスが勝利しましたが、その前の1月20日に、スーパーボウルへの出場をかけたNFCチャンピオンシップが行われ、ウィスコンシン州の北東部 Green Bay (人口約10万人) を本拠地とするパッカーズが49ersと戦い、20対37で惜しくも敗れています。

パッカーズは100年の歴史を有し、スーパーボウルで史上最多の13回の優勝経験がある名門チームです。そして、全米で唯一、市民がチームのすべての株を保有している市民チームです。

そのため、地域への恩返しとして、秋から冬にかけてのシーズン中はイベント等を通じ地域とふれ合う活動を行っているほか、シーズンオフには子ども病院への慰問や貧困家庭へのチャリティ活動などを積極的に行い、その活動範囲は州全域に広がっていて、まさに地域に根付いたチームです。

また、株式の売買や所有数に制限があり、しかも、株主には配当金やシーズンチケットの優遇もないことが、逆に株主の誇りとなって人気を高めていて、株主になるには30年かかると言われています。

シーズン幕開けの9月になると気温が零度以下になることも珍しくないウィスコンシン州では、試合観戦に完全防備の服装で臨む必要があるようですが、運よくチケットを入手できた時は、是非パッカーズを応援してください。

当協会のHP「掲示板」にもファンの方から、定期的なパッカーズの奮戦状況を報告していただいています。

※スーパーボウルとは

ナショナル フットボール リーグ
NFL (National Football League) の中の NFC (National Football Conference) と
アメリカン フットボール カンファレンス
AFC (American Football Conference) のそれぞれの勝者がリーグのNo.1をかけて争う。



「チーズヘッド」をかぶる地元のパッカーズファン

CWAからのお知らせ

PRスタッフを募集しています

千葉ウィスコンシン協会では、毎年ウィスコンシン州との姉妹交流事業を実施しているほか、イベントへの出展、ウィスコンシン州出身のALT (外国語指導助手) を交えた会員等交流事業などを行っています。こうした活動を、SNSを通じてPRするスタッフを募集しています。ご興味のある方は、下記にお問い合わせください。

電話 043-223-2394 (千葉県総合企画部国際課内)

メール kokuaisaig2@mz.pref.chiba.lg.jp

令和2年度 理事会

5月19日(火) ホテルポートプラザちば

令和2年度 総会・交流会

6月6日(土) ホテルプラザ菜の花

総会: 11時から

交流会: 12時から

県民の日中央行事

『県民の日ちばワクワフェスタ2020』へ出展

5月31日(日) 幕張メッセ国際展示場ホール8

9時30分～17時

毎月の運営委員会の前に行う各部会での打合せの様子



広報部会



会員等交流事業部会



派遣・受入事業部会

【編集後記】

今回のメインは令和元年度千葉県友好使節団による活動報告です。団員からはウィスコンシン州での様々な交流を通じて得た貴重な体験とともに受入れ先への感謝の思いが語られました。CWAでは今後も多くの千葉県民がこのような素晴らしい体験をしていただけるよう努力してまいります。

発行所: 千葉ウィスコンシン協会

発行人: 森山茂男 編集: 広報部会

<http://chiba-wisconsin.net/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(公財)ちば国際コンベンションビューロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394 (千葉県国際課内)